

埴輪から読み取れる古代の交流関係

千葉県教育庁教育振興部文化財課埋蔵文化財班文化財主事 倉橋 裕真

千葉県は、全国で4番目に古墳が多い地域である。特に芝山町内では、消滅・現存を含めて約280基の古墳が確認されている。その中でも殿部田1号墳は推定墳長36mの前方後円墳であり、墳丘東側中段に埴輪列が出土している。埴輪は円筒埴輪、馬形埴輪、人物埴輪、家形埴輪等が出土している。特に個人的に注目している点は、寄棟造の家形埴輪である。この家形埴輪の1棟は屋根に2羽の鳥がとまっている（写真1）。この鳥は単独で表現される鳥形埴輪と異なり、鶏や水鳥といった種類が分かる特徴がない。そのため、家の屋根に鳥がとまっているという表現に意味があると考えられている。

他に家の屋根に鳥がとまっている表現がされている遺物として奈良県佐味田宝塚古墳出土の家屋文鏡が挙げられる。この鏡には、高床住居、平地住居、竪穴住居、高床倉庫の4種の建物があり、どの建物にも共通して2羽の鳥が描かれている。この表現は、古代中国の思想に影響されたものであるという説がある。また、兵庫県行者塚古墳から出土した家形埴輪は、屋根に5本の鰹木をのせており、2羽の鳥がとまっている。以上の事例と殿部

田1号墳の家形埴輪が関連した思想のもと、製作された可能性が示唆され、興味深い。

また、現在の山武地域の人物埴輪は、その特徴から「山武型埴輪」（写真2）と呼ばれている。大型の全身像で表情が穏やかなものが多く、衣服や装身具、指先等の表現が丁寧に作り込まれ、写実的である。一方で、印旛沼や手賀沼、利根川流域では小型で半身像、腕等は粘土棒をそのまま貼り付ける等の人物埴輪がみられる。これらは旧下総国（千葉県北部から茨城県南部）を中心に出土することから「下総型埴輪」（写真3）と呼ばれている。

芝山町付近から離れた千葉市の人形塚古墳でも山武型埴輪が出土している。また、市原市の山倉1号墳では埼玉県にある生出塚埴輪窯跡で製作された埴輪が出土している。以上から埴輪が地域を越えて運ばれており、地域間の交流が盛んであったと想定される。

今回紹介した資料の中で芝山町付近の埴輪及び以下3点の写真は、芝山町立芝山古墳・はにわ博物館に展示されている。



写真1 家の屋根にとまる鳥



写真2 山武型埴輪



写真3 下総型埴輪

千葉教育 萩 (No. 681) 令和5年8月31日発行

編集・発行 千葉県総合教育センター (代表) 鉄井 修一
〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13 TEL 043-276-1204
URL <https://www.ice.or.jp/nc/>
印刷所 千葉市療育センター いずみの家
〒261-0003 千葉市美浜区高浜4-8-3 TEL 043-216-2465